

名古屋・知多女性フォーラム

「未来へ活かす 男女共同参画」 一本音で語ろう！ 明日に向かって一

日時：2014年1月26日（日）13:30～15:30（13:00開場）

場所：JA あいち知多総合本部ビル 7階大会議室

◆オープニング

インディアンフルート演奏 イネ・セイミさん

◆開会の挨拶 地域開発みちの会会長 山中和子

皆さま 本日はお忙しい中、知多・名古屋女性フォーラムにお越しくださいませありがとうございます。また、ご臨席賜りました常滑市長 片岡憲彦様、座談会にご参加いただく愛知県副知事 吉本明子様、高いところからではありますが御礼申し上げます。そして、この会場をお貸しくださった「あいち知多農協共同組合」様、ご後援いただいた「JA あいち知多女性部」の皆様、ありがとうございました。この大会議室からの伊勢湾の景色は素晴らしいので、まだご覧になっていらっしゃらない方は、お帰り前にどうぞご覧ください。

さて、皆さん、昨今、「女性の活躍」、という言葉をよく聞きませんか？

安倍首相も成長戦略の中核と言っておられたし、本日お越しいただいている吉本副知事も就任当初から女性の活躍促進に意欲的に取り組んでおられます。

とは言うものの、実際のところ、女性が、出産、子育て、介護などを抱え働くのは大変です。もちろん、独身でバリバリ活躍されている女性もおられますが、家庭を持った場合には、女性に負担がかかっているのが現状です。男性も一緒にしたくても会社から早く帰ってこれない、という場合もあるでしょう。女性の活躍を考えるうえで、男性の働き方も重要な部分を占めていると思います。

個人の考え方や幸せ感は様々です。家事や子育てに専念をしたい人もよし、働きながら、それらをこなすのもよし。でも、仕事か家庭かと二者択一ではなく、働きながら、家事・子育てそして介護もできる社会、多様な生き方を選択できる社会であってほしいと思います。そのために私に何ができるか、何をすべきか、地域開発みちの会で、仲間と一緒に考えています。

本日のフォーラムが、皆さまにとって、それぞれの働き方や生き方を考えるキッカケ、もしくは、参考にしていただけたら幸いです。皆さん、女性も男性もより個性を活かせる明るい未来を一緒に築いていきましょう。簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

◆来賓挨拶 片岡憲彦常滑市長

こんにちは。地元常滑市長の片岡です。本日はようこそ常滑市へ。ここの眺めは素晴らしく、今日は曇っていて鈴鹿の山並みは見えないが、南は島の先まで見えるそうです。夕

日も素晴らしい。センター試験の地理の問題で常滑が出ていたそうです。中日写真展の報道部門の第一席が、とこなめ散歩道を撮った人だったとか。今回の会場も常滑で嬉しく思っています。時間があるときにでも足を運んで散策していただければと、思います。お子様が住宅地をお求めの方、住宅地は南のあすか台がお勧めです。1650 世帯 5000 人の住宅地を作る予定です。新しい病院も建ち、今が買いです。是非ともオススメください。その際は市役所までご連絡を。

少子高齢化、経済の長期低迷等、社会情勢は変化しています。空港で働く人たち、コストコなど時間に関係なく働く場があります。子育てをどうするか？子どもを預けて働くことを望んでいる声が上がっています。24 時間保育とはいかないまでも、夜 10 時くらいまでの保育が望まれる。それ以外にもさまざまな女性の声があります。それには旦那さんの協力が欠かせない。男性も育児休暇があるが、取得率はまだまだ少ない。

子どもは夫婦ともに育てることが大切だと思っています。女性の管理職を、とよくいわれるが、問題解決にあたり、セミナーを中心とした勉強会も必要だと思う。

大震災でも問題になった避難所。女性の視点がなくてはならない。女性が必要とする物品を置くなど。女性の目線にたったことをやる必要があります。宣伝になるが来週の 1 日木曜日に、常滑市福祉会館で「あなたの防災意識は誰目線」と題して避難所運営シュミレーションをする。こちらにも是非ご参加ください。

何事にも男女共同参画意識が大事です。今後とも意識を持って進めてほしい。今日は本音で語っていただき、男女共同参画社会を目指していきたい。今日の開催にあたり、スタッフのみなさん、多くの皆さんにご足労をいただいた。これからも益々、会が発展していくように、今後の活躍を期待しております。

これからもよろしく願います。本日はありがとうございました。

◆来賓挨拶 吉本明子愛知県副知事

紹介いただいた、吉本です。女性フォーラムに参加させていただき、ありがとうございました。みちの会の主催ということで大勢の関心のある方が足を運んでくれている。私も大変嬉しく思います。さて、「未来へ活かす」ことがテーマになっていますが、男女共同参画と言われるようになり久しい。法律になったのは 10 数年前。運動は古くから続いており、実感として、男女共同参画ではどのくらい進んだのでしょうか。変わってきていることも多いのでは。しかし、まだまだ十分とは言えないと思う。

日本は失われた 20 年と言われていた。経済的には今、期待が高まっている。世界から見ると遅れをとってはいるが……。アベノミクスが期待されているが、女性の問題についても頑張っている。愛知、この地域に根ざした実践的な活動を進めることで愛知から発信したい。どんどん実践を進めてほしい。いろいろな企業、男性自身、女性自身とやることはたくさんある。具体的な実践に結びつけていきたい。

本日の会がよい会になるよう頑張りたい、最後までお付き合いをよろしく願います。

◆地域開発みちの会 パワーポイントによる活動報告

◆DVD「これからの男の生き方! イクメン・カジダン・共同メン」

《5分でわかる男女共同参画》

◆座談会

飯尾 歩さん（中日新聞社論説委員）・・・ 進行役

吉本明子さん（愛知県副知事）

大寄暁美さん（愛知県男女共同参画審議会公募委員）

岡本一美さん（NPO法人 地域福祉サポートちた代表理事）

（飯尾）

驚きです。こんなにたくさん女性がいる。男性もいる。夕べ心配で寝られませんでした。名前があゆみ、だと女性に間違われる。本人が出てガッカリされたこともあります。男性も理解を持って、一緒に頑張っ、初めてできる、それが、少しずつでも形になりつつあることを今日実感した。男女も大切だが、みんなが楽しくできることが必要。だから地域開発。バランスのとれた社会作りを目指して、スタートでなく、深まるきっかけとしたい。多様な生き方、それぞれの報告をいただけるそうです。まず副知事、今日はありがとうございます。施策中心になるのかな。基本として副知事が来てくださることが、施策になる。変化の表れですね。具体的な話から県の女性に関わる相談など、時間を気にせず、ゆっくり話してほしい。

（吉本）

よろしくお願いたします。昨年7月より現職。それまでは厚労省にいました。旧労働省に入り、女性問題などの仕事をしてきた。岐阜県出身で、研修の形で20数年前にも愛知県で働いた経験がある。副知事の仕事は、健康福祉、医療、子育て支援、その中に男女共同参画もはいつている。大村知事がとくに女性問題に力を入れてほしいとのこと。資料を用意した。最後のページ。女性の年齢、階級について。ビデオと共通でもあるが、基礎知識としておさらいになる。男女共同参画というと広いが、女性の活躍というのは、女性だけ頑張るのでなく、女性が活躍できる環境をつくるもの。男性の働き方の見直しも含めてい

る。
女性の活躍に関するデータ。M字型カーブが日本では多く見られる。仕事につくと辞められない。このカーブは日本全体の傾向。愛知県だけを見てみると、2000年と2010年の比較では、カーブが上に上がってきている。子育て期でも働く女性が増えてきているが、諸外国のように台形になっていない。意識調査をすると、いろんな事情で働けない女性が多い。子育て、家事との両立は難しいので、それを改善することで台形に繋がる。それが戦略のひとつ。

その下のグラフを見てください。日本が左側。右にその他の国。左側の棒が働く女性の割合。右側は、管理的職業とは管理職につく女性。日本は労働者の4割以上が女性だが、管理職は少ない。これだけ少ないというアンバランス。何か問題が隠れているのではないかと。裏を見てください。細かくなりますが、県内の女性の活躍を整理している。固定的役割意識、夫は外、妻は家庭という意識。反対の人の割合が全国よりも少ない。

労働力率は全国より高いが、M字型は谷が深い。雇用者の女性の割合が少し少ない。男性の雇用者の割合が高い。長く勤める女性と女性管理職が少ない。数字だけで悲観していても仕方ない。平均的な数字なので、いろんな事情で働く女性も多い。一つの指標として参考にしていただければと思います。全体の働き方を変えていかなければなりません。取り組みの方向性では、指標をみて愛知は遅れていると言われるが、必ずしもそうではない。

まず県庁の中に、女性の活躍するプロジェクトチームを作りました。今は男女共同参画室ですが来年から課になる。施策全体をとりまとめるために、女性の活躍のためのチームを組んだ。何が課題か、何ができるか。課題を整理したものを3つ書いてみた。

1. 女性の活躍の場の拡大。2. ワークライフバランス。3. 子育て支援。それぞれに関連がある。場の拡大は、企業の中で働く方が多い現状では、企業、特に経営のトップの考え方を変化させないといけない。女性のためだけでなく、新たな視点を取り入れる、イノベーションになる。経営戦略として、定着、浸透させ、実践できるような形にもっていく。前提となる就業継続も必要で、女性自身も力をつけなければならない。愛知県としてもセミナーをやっている。女性は働く中で悩んだとき、横のネットワークがない。みちの会にも入ってもらっているが、いろんな活動をするグループとの、緩やかな連携のための女性団体のネットワークを作ろうとフォーラムを立ち上げた。それも女性自身の力にしていく。起業のお手伝いも。現状として子育てとの両立を支援したい。仕事を辞める人への再就職の支援も。

ワークバランスは大切。育児休業、子育て期の短時間勤務でも女性だけのものではない。男性もその制度を使い、一時期だけ子育てに軸足を向けるようなそんな柔軟なスタイルができるようにしていく。これに企業側も取り組まないと、女性に対する現状は変わらない。女性が使えない、役に立たない、などの女性の置かれる現状が男性とは違うことを男性にも知ってほしい。

育児休業のためのイクメンサポートを始めた。1週間でなく、子どもの誕生をきっかけに、育児休暇をとってもらおう。問題意識を持つようになる。上司の職場づくりが悪いと子育て支援も重要になる。行政以外でも、保育所の整備など、市町村、県でもお手伝いしたい。プライオリティを高めたい。

(飯尾)

ありがとうございました。ご就任間もないので、数字の分析を進めている段階だと思う。数字だけを見たところ、愛知県は見劣りがすると。大都市でありながら印象的なひずみが

働いているとしたら、県の特徴的なものとして、感じていることはいかがですか？

(吉本)

固定的な役割意識は、事実として全国でも変わりつつある。一時期の夫は外、妻は家庭が減っていた。今は逆に増えてきている。その理由は、愛知は非常に経済的にも豊かなこと。高度成長期で、男性中心の企業雇用がある、女性はそれを支えるというビジネスモデルがあった。経済的な豊かさもあり、あまり支障がでなかった、恵まれた環境だといえる。これまでは、です。

(飯尾)

室、はどうですか？

(吉本)

スタッフ 6人でやっています。新しいチームもできてきている。

(飯尾)

愛知県では、企業の気づき、変革を県から働きかけないといけない気がする。これまでとは違うアプローチが要るのでは。

(吉本)

企業に本気になってもらうよう、しかけが必要。全国的に、企業が自ら指導する、行政から押しつけられるのではなく、社会からも、戦略的な企業だと見られる、そんな仕組みづくりが各地で創れるような、取り組みが必要。

(飯尾)

日本経済を大きく支える女性の副知事がいなかったのも、どしどし企業に出ていただきフットワークも軽くと、期待する。皆さんも、期待を表現してください。共感されることが、参画になる。意思表示をはっきりとしてくださいね。パチパチパチ（拍手）なんと気づきの早い方々でしょう。期待がもてます。行政の変化の兆しをはっきり見たでしょう。大寄さん、資料を見ると、働く側からの壁のようなもの、行政側からでなく、働く側にとって何が女性の活躍を阻むのか。大寄さん、これも参画です。

(大寄)

今、安倍首相も女性の活用を成長戦略の一つに掲げ、女性の社会進出を推し進めようとしています。男女雇用機会均等法など、法律も整っています。しかし、なかなかM字カーブは解消されず、女性の活用は世界でも低水準に位置しています。私たち女性の努力がま

だ足りないのでしょうか？

日本の女性は、結婚、出産、子育て、そして介護とさまざまな場面で、仕事との両立か、辞めるかの二者選択かを迫られます。

一昨年秋にラガルド IMF（国際通貨基金）専務理事が、女性の就業拡大が日本の経済を救うと発言したことは、記憶に新しいと思います。

その時、私も、そうだそうだ！女性を活用しよう！男女共同参画だ！とはしゃぎました・・・しかし、よく考えてみると、男性が働いている間、女性が遊んでいるなら、女性が就労することで2倍の労働力と経済効果が得られると思います。

しかし、子育て・介護を含めた家事労働や地域の活動などを引き受け、家庭や地域を支えているのは、女性ではないでしょうか。それらの家事労働をかかえたまま、女性が社会で働かされれば、それは活用ではなく、女性の利用です。

「女性が輝く日本へ」とか「眠れる資源」とか「潜在力」とかおだてられても、家事労働との両立の大変さにしり込みをしてしまい、就労すること・働き続けることは、難しいと思います。

家事労働がこんなに日本の女性の負担になるか、3つの理由があります。

理由の1つに、育児や介護への公的支援の少なさにあります。

資料のグラフ、「保育・幼児教育への公的支出の国際比較」をご覧ください。

これは、2005年時点のOECD調査で、国民純所得に対する保育サービスの費用を他国と比べたものです。日本は、先進国29か国中22位で、保育サービスは、家庭の支出に依存していることがわかります。

2つめは、日本の労働時間の長さにあると思います。年間総実労働時間は、ヨーロッパの平均的な国々より年間300時間も多いとされています。

特に男性は、残業や休日出勤の結果、健康を害し、過労死に至る場合もあります。このような状況で男性に家事を分担することは不可能です。

また女性が働き続けるには、このような男性的な残業は当たり前という働き方を強いられます。残業が、評価される考えがまだ強いからです。

資料のグラフは、一番子育てが大変な6歳未満の家庭での夫の家事育児の時間を比較したものです。よくイクメンを説明するときに使われるグラフですが、ここには、長時間労働で、家事・育児をしたくてもできない日本の男性が見えてくると思います。

3つ目の理由は、男性の意識だと思います。手厳しいかもしれませんが、私に言わせれば、イクメン・カジダンも、まだ女性の家事労働を手伝うというレベルにしか達していない気がします。家事を自分の役割でもあると、考える男性が増えるには、まだまだ時間がかかると思います。

女性が社会で活躍するには、保育や介護などの公的施設サービスの充実、長時間労働の是正、男性の意識改革をし、家事労働を分配することが不可欠です。

女性があたりまえのように働き続けられる社会を必ず構築しなければならないと思いま

すが、現状では、家事労働を念頭に置いて、短時間で就労できる柔軟な働き方ができる社会が望まれます。

正社員として短時間でも働き続けられる「短時間正社員制度」という制度がありますが、まだまだ広く普及していないのが、現状です。

短時間正社員制度を除くと、一般的に短時間労働は非正規雇用です。非正規雇用には、不安定な雇用、低賃金、社会保障がないことなど、多くの問題があります。

私の働き方、パートタイム労働も非正規です。2000万人と言われている非正規労働者のうち、800万人を占めていると言われています。

主婦のパートタイム労働には、103万円の壁、130万円の壁があり、働き方を制限しています。資料を見ていただくとわかるのですが、男が外で稼ぎ女は家庭・・・という分業で家計がうまく回っていた高度成長期に作られた税制度や社会保障制度が今、私たち主婦パートを生きづらくしています。これらの制度のため、労働時間を制限している主婦パートは、2割ほどいるそうです。少子化で労働力不足が進みつつあるというのに、就労時間を減らすという反対の作用が起こっているのです。

私は、130万円の壁の前で、立ち往生しています。

130万円は、第3号被保険者でいられ、夫の健康保険に扶養家族として入れてもらえるというラインです。

私は、こう見えても、優秀なパートです。しかし、この何年間かは、時給が一円も上がりません。時給を上げると、調整で休む時間が増えてしまうからです。

主婦パートを雇う側の事業主にとっては、130万円の制限は、本人と折半で支払うべき社会保障の保険料を払わずして、労働者を低賃金で雇える大変お得な制度となっています。

私は、130万円の壁の中で、働く時間も、時給も制限を受けているのです。働く者にとって、給与は、評価です。評価がされなければ、仕事への意欲を失い、人間の尊厳をも踏みじめる行為だと思います。130万円の壁のために、働き方を制限されることは、憲法22条の「職業選択の自由」に違反するのではと思います。

女性が短時間で就労することも、制限を受け、気持ちよく働けないのです。

130万円の壁は、主婦を優遇していると言われていることも事実です。保険料を支払わなくとも、国民年金に加入できるからです。しかし、第3号被保険者は収入130万円以下のすべての人がなれるわけではありません。配偶者が、第2号被保険者であることが条件です。配偶者が1号のような自営業の人や雇用されていても非正規雇用で厚生年金に加入していない場合、もしくは本人が独身の場合は、130万円以下でもその収入から、保険料を支払うことになります。このことは、離婚の増加で増えているひとり親の世帯の家計を更に圧迫しているのです。

また、103万円130万円の壁は、私の時給が上がらないという事例通り、低賃金を生んでいます。それは、非正規雇用労働者全体の賃金水準をひき下げる原因になっています。

今、日本で非正規労働者は、雇用者全体の4割になろうとしています。家計を支える人

が非正規雇用であることが珍しくなくなっています。そして、仕事内容や働き方においても正社員とそれほど変わらなくなっています。

しかし、資料のグラフを見てください。正社員と非正規雇用では、就職の時点から、賃金に差があり、その後、いくら頑張っても正社員のように勤続年数で賃金は上がることがなく、働き続けても、安定した生活ができないということがわかります。・・・格差や貧困は、広がるばかりです。

EU 諸国では、フルタイム労働者とパートタイム労働者の均等待遇が法律で定まっています。韓国でも、短時間労働であることが理由で賃金などが差別されることが、禁止されています。

日本も労働時間の長短や雇用の形態に関係なく、均等待遇にし、すべての労働者の賃金が公平で、社会保障の対象になれば、正社員と非正規雇用の区別がなくなり、個人にあった多様な就労ができるようになります。

どんな働き方でも、どんな生き方や家族形態でも、誰もが働くことに意欲をもち、経済的に自立した格差のない社会の実現を望みます。

(飯尾)

あざやかなデビュー戦でしたね。共同参画ですから発言があれば。吉本さん、国の税制、日本経済新聞だと、配偶者控除が 8 億 6 千万円。年金制度がすぐにたち直せるはず。県の制度から、国の壁にどうアプローチできるか。大寄さんのプレゼンに対し、感想やコメントをいただきたい。

(吉本)

最初の話は難しいので、男性の参画等には、働かせ過ぎには同感。残業を減らすには企業の経営などに密接に関係している。ここがハードルの高いところ。子育てなどへの支援が諸外国と比べ少ない。税、社会保障との兼ね合いかと思う。国民負担と裏腹でしょう。それを選ばない国。限られた税の中で、社会保障にどれだけ配分するか。医療、生保いろいろの中で、子育てにどのくらい回せるか。気持ちとしては、県の来年度予算を考えたとき、限られた財源の中で、子育ての重要性を思っています。

(飯尾)

ありがとうございました。県の努力を国に繋げていくことは、薬師寺さん、よろしくね。最後になるが、岡本さん、男女共同参画という大きなテーマの実現のためには、男女の問題だけでなく、多様な生き方、働き方。働き過ぎ、働かせすぎにも関わるが。企業と個人との関係になる。その選択肢しかないのもいけない。多様な生き方、働き方を念頭に、多様性をひろげる話をしてください。ノルウェーでは、週末は誰も働かない。小国と思えるが、国民の多くは金曜日になるとソワソワし、週末は郊外の別荘で、何もしないで過ごせ

る。我々では想像できない暮らしがある。男女が働きやすく、豊かな国となっている。

(岡本)

こんにちは。岡本です。よろしくお願ひします。2000年に介護保険が始まったが、知多地域では、制度の10年も前から、困っている家庭にはボランティアが助けよう、と活動が始まった。今では、介護保険事業者として地域の雇用を生み出している。これらの現場が36団体、会員になっている地域福祉サポートちた、というNPO法人で仕事をしています。主に現場で働くヘルパーの人材育成を基本事業として活動していますが、NPOの現場から見えることをお話しします。

今日話題になっている、子育てと介護。生き方、暮らし方、働き方がつながった職場が市民発のNPOの現場です。ここ常滑にも、NPO法人あかりがあり、活躍されています。

まずは日本の大きな課題。世界一の超高齢社会です。そんな状況の中、これからの社会をどう創るか？行政の仕事、市民がやれること、企業ができること、いろいろあるはずですが。世界に類を見ない超高齢社会における、これからのまちづくりの視点をどこにおくか。趣味やスポーツをしたり、ボランティア活動、地域活動を基盤として、介護が必要になったら医療と福祉が連携する「地域包括ケアシステム」を基礎自治体ごとに作らなければならない。そのヒントは福祉NPOが持っている。介護保険以前からやっている、「助け合い活動」いわゆる任意サービス。生活を支えていく活動を事業として進めてきた。

年末には、今日も理事長が参加されていますが、半田市の会員団体、NPO法人りんりんを愛知県産業労働部が訪問した。企業で管理職世代男性社員に介護離職が増えてきた。これから貢献してもらいたい人が辞めてしまうのは、会社にとって痛手である。辞めずに済む方法があることを、企業に出向いて教えてやってくれという話です。資料を見てください。日経の電子版からとったデータですが、作った本人が今朝NHKの「サキドリ」という番組に出ていた。社員が休めるようにと提案している会社を放映していたが、私としては、腹立たしいことでもある。男性社員が辞めるのは困るからと動き出すことに対して。女性の子育てや介護では、そこまで企業は動かなかった。

しかし、ピンチはチャンス。大介護時代の今、男性の問題になって初めて企業が動く、働き方を見直すことになるとしたら、ラッキー！と思っています。地域のこと、家族のことを振り向かずに、必死に仕事をしてきた男性。介護保険の制度も知らなかった。近所で助け合える関係づくりもしてこなかった。助けてね、と言える関係づくりは、男性はできなかったが、これは女性が中心になって創ってきたことです。男女で役割が分断されてきたが、これからは一緒に取り組まなければいけない。初めて女性の問題が、国民全体の問題になった。介護する男性をケアメンというようですが、もはや介護は女性の問題ではない。家族のこと、両親のこと、仕事も辞めずに大事にするには、皆で知恵を寄せ合わなければならない。

それぞれの国に歴史、文化、価値観、国民性がある。よそのものをマネしても駄目。副

知事をお願いします。愛知モデルを創っていきましょう。私たち一人一人にもやることはある。みんなで頑張りあいましょう。

多様性のヒントは、現場にあります。二段目のグラフは、愛知県が行った NPO 法人の雇用状況調査です。スタッフ調査、595 人のスタッフの方、女性が 7 割で男性 3 割、NPO の雇用形態は、ボランティアから始まり、雇用につながり、いろんな形で働く人が出てきた。企業の場合は、組織でボランティアをする人はいない。NPO には、いろいろなパターンで仕事がある。

NPO 法人りんりんでは、法人内に保育の活動があります。介護の事業もしています。職員の家庭に問題が起きたときに、すぐ辞める判断をするのではなく、なんとかできないか外部のサービスも使いながら、調整しています。家庭に困難がある時期は、働き方を小さくして、働けるようになったら時間数を増やす。親の介護の問題が起きたときにも、辞めることなくボランティアで継続される方もあります。定年になると収入は少なくともいいので、それに合わせてボランティア活動に変わっていく方もある。みなさん、どの世代でも生きがいを持って地域に関わっている。新しい両立の取り組みを考える場作りをしていきたい。

(飯尾)

ルーキーからベテランまでいろいろ味わえた。これぞ多様性。一家で一人の人間が一日、週 5 日間会社で机にかじりつくのが、それが働いているといえるのか。労働の中身でなく、時間だけで判断するのか。型にはまった社会を疑ってみることから、足りない面、良い面も分かってくる。「創造」ということを言われた。地域とのつながりで、伝統や風土の資産の上で、初めて「創造」はなりたつが、「地域開発」の意味は「地域力を引き出す」こと。男女が共同し、地域の持っている力をどう引き出し、豊かにできるか。吉本さん、今のベテランの味はいかがでした？

(吉本)

既存の考えでは解決できない今、両面から新しい試みが増えていくと思う。愛知モデルがどんなものかを知りたいし。NPO 法人の方々、行政が具体的にできる部分。いろんな形で上手く分担し、企業も含み役割分担して連携できるようになるといいが。

(飯尾)

ありがとうございました。現場の皆さんに、聞いておきたいことは？要望を受けるのではない。現場の声を施策の組み立てに入れていただき、1 年後にまた来て頂けたらと思いますが。

(吉本)

フロアからも意見を出していただければ。いろいろな分野の中で、子育て、福祉、女性

の働き方について、何か違うなと思う点があれば、むしろお聞きしたい。

(飯尾)

積極的な寛容な提案ですね。できれば具体的に伺いたい。自分の経験を踏まえた意見を、お三方に提案でもよいのでお聞きしたい。愛知モデルを創らなければいけない。知多・名古屋で足りないものについて、ご意見、ご質問はありませんか。最初の一人に賞品を用意しておけばよかった。この会ですので最初は女性ですよ。

(森田) ー会場よりー

今年のテーマをみちの会名古屋ブロックで検討した時に、「吉本副知事を囲む話し合い」を提案しました。このような形で実現したことを大変嬉しく思います。

愛知県の女性の参画を進めるプロジェクトでは、数だけでなく基幹となる部門への女性の進出を図り、女性がイニシアティブを取れるように副知事には頑張って頂きたいと思えます。

生物多様性条約 COP10 の際、飯尾さんには私たち女性の活躍も記事に取り上げていただき感謝しています。その折ミレニアム開発についても飯尾さんと話し合いましたが、来年の名古屋で開催される ESD に女性の声がどこまで反映されるかが問題だと思います。私たちも頑張るので、バックアップをお願いします。

(吉本)

チームは県庁の中だが、県全体に向け、検討中です。具体的には、大きな問題提起の場合は、県民一人ひとりがどう向き合うかだと思っています。

(飯尾)

ボクからも一言。生物多様性は「いろんな命が、あらゆる場面で生きられる」というもの。ESDをご存じの方？バイアグラとは関係ないです。持続可能な開発教育。実は、基はと言えば、地域の環境をよくするには、特に途上国で女性に教育をつけて、登用していくこと。

地域の力を引き出そうとの、その援助をしようという日本からの提案だった。働き方の多様性。男女の共同が大きなテーマだった。来年度の愛知のESDに関する大きなイベントに、ESD と男女共同を結びつけたものにしたい。発展途上国では、開発と環境をよくするために、女性が主体になると農業の生産額が大きく上がるという状況がある。ここも勉強していただきたい。大寄さん、ご自身が今後どのように発展したいかを。

(大寄)

終わってほっとしていました。主婦パートの問題は、自分だけかと思っていたら、800

万人もいて、130万の壁は、800万人のうちの2割の女性を縛っていることが、Cブロック学習会の本田先生の講演会で知りました。同じく苦しんでいる人がいる、と。

私は、勤務時間6時間、通勤、昼の休憩を含めると、1日8時間の仕事に拘束されています。その中で小学生の子どもがおり、ボケ始めた義父がいる中で、毎日時間に追われるように生活しています。本を読んだり、講演会も聞いたりすることがなかなかできません。同じ思いを持つ主婦パートと情報が共有できる場所としてフェイスブックでグループを立ち上げました。そこで、主婦パートの問題をみんなで考えることができたらいいなと思っています。

(飯尾)

会場との雰囲気はよくなってきたね。頼もしい感覚ですよ。大寄さんにできないことが、支援NPOにもあると知ってほしい。NPOとしてできることを、岡本さん。

(岡本)

庁内会議を県で行っていますね。県庁内の関係部課でやっていると聞いています。次は、企業や地域活動団体の声を聞く段階かと思いますが。新年度はテーマを具体的に設定して、地域円卓会議を行いませんか。問題を共有して、一緒に話し合う。地域ごとに実践しましょう。それをNPOではやっている。どうでしょうか。

(吉本)

いろんな形で議論する場を創る必要がありますが、現在あるものを活用もしないといけない。来年のことは知事から言っていただくとして、先走って言えないこともあります。女性の活躍推進には、企業経営のあり方に問題意識を強く持っています。企業を巻き込んだ地域での女性の活躍を促進するための仕掛けづくりに取り組んでいきたい。メンターゲットは企業だが、その他、いろいろな場でも、ネット上でもできるかと思っています。

(飯尾)

今日の会合でも、最初はおそろおそろだったが、主催者の情熱から、ここまで深まった。この地域にも有力な企業がある。思い切って、働きかけたらどうかと思う。すべては皆さんが「話がしたい」とのオファーをかけるところから始まります。なるべく、自分たちの声を具体的に届ける。そうすると会話の場が広がる。参画という部分を大切に。企業にとっても、企業がターゲットになると、生き残るための、よりよい環境をつくるためのアドバイスをしてもらうつもりで。男性からも、意見を聞きたいですね。そうでないと男女共同にならない。手が挙がらないから、大地さん、何か言ってください。

(大地) ー会場よりー

初めて参加しました。ボランティアを10年間している。小学生の送り迎えをしています。世の中で恐いのはお母さん。女性の力は正論で、私は反論できない。女性のいうことは正論。企業に長くいたからわかるが紅一点はあっても、黒一点はない。

(飯尾)

ありがとうございました。ぜひ一緒に進めていただきたい。一緒に進んでいく会ですからね。最後に一言、吉本さんからお願いします。まとめの大役から逃れたい。

(吉本)

この場に参加して嬉しかった。皆さんも言いたいこともあるだろうから、さまざまな機会を活かして、声を届けてほしい。これからも女性の活躍のために頑張りたい。よろしくお願いします。

(飯尾)

よろしくお願いします。これは中締めですよね。新しく始まる部分も大きくあるので。ありがとうございました。

◆閉会のことば 地域開発みちの会副会長 片桐真砂子

本日はたくさんのご来場ありがとうございました。未来へ活かす男女共同になったと思います。来賓の方々ありがとうございました。これをもちまして、第26回知多・名古屋女性フォーラムを終了いたします。アンケート用紙はご記入の上、出入り口のところで担当者へ渡してください。